貴司山治全日記

一九一九年～一九七一年

プロレタリア文学再考の新基軸！

小林多喜二、中野重治らとともに作家として、ジャーナリストとして大衆と向き合った貴司の半世紀にわたる活動の全記録を完全デジタル化。人名検索機能を付し、激動の時代を再現する！

電子版　DVD全4枚＋別冊『貴司山治研究』1冊

貴司山治研究会（代表・中川成美）編

本体揃価格二八七、〇〇〇円＋税

DVD版

大森書斎にて（1926年）

不二出版

『貴司山治全日記』（DVD版）刊行にあたって

プロレタリア大衆作家・貴司山治（一八九九～一九七三年）の全日記と関連資料をDVD全4枚に収録。

貴司山治はプロレタリア文学運動のなかで、『ゴー・ストップ』など多くの作品を生み出し、一貫して芸術の大衆化の問題を追求し続けた作家である。

塩田業の盛んな徳島県鳴門に生れた貴司は、新聞記者、通俗小説家をへて、一九二八年、日本プロレタリア作家同盟に参加する。つねに創作活動を軸とし、労働運動に対して「同伴者」としての立場を貫いており、二度の検挙、作家同盟解散をへたのちも、雑誌『文学案内』（一九三五～一九三七年）を発刊し、大衆との新たな連帯のかたちを模索した。しかし、弾圧は熾烈をきわめ、三度目の検挙ののち「完全転向」する。

戦時期には内モンゴルを旅行、その行政と風俗、要人との交流を記録した。戦争が激しくなると、疎開先の京都胡麻郷で開拓に従事し、戦後すぐには開拓農民運動に参加している。その後も、雑誌『東西』『暖流』の発刊や、小説配信を専門とする通信社「作家クラブ」（のち「文芸社」）を設立しながら、多くの大衆小説を発表する。

本資料は、貴司山治が故郷を発つ直前の一九一九年から七一年までのおよそ五〇年にわたって綴られたすべての日記と関連資料を、貴司山治研究会（立命館大学研究プロジェクト）によってデジタルデータ化したものである。刊行に際し、新たに年月日および人名の検索機能を付した。

DVD収録にあたり、日記を二枚におさめ、関連資料として「地下鉄争議ノート」（争議関係者への取材ノート、一九三三年ごろ）、「蒙古日記」（内モンゴル旅行の記録、一九四三年）をそれぞれ一枚におさめた。

作家の内面に迫る厖大な日記を、プロレタリア文学史、社会運動史、ジャーナリズム史の再考を促す資料として上梓する次第である。

特にプロレタリア文学研究の新たな一頁を開くために、研究者必携の資料である。

不二出版

別冊『貴司山治研究』（A5版・上製・約480頁）

分売価格＝本体7,000円＋税

目次

I　論文篇

解説

文学者・貴司山治とプロレタリア文学　中川成美
「貴司山治日記」の概要　伊藤　純
日記に見る貴司山治の転向　浦西和彦
貴司山治と雑誌　鳥羽耕史
貴司山治の『蒙古日記』　森　久男
戦時・戦後の開拓政策と貴司山治　安岡健一

解題――「日記」から見る貴司山治の評伝

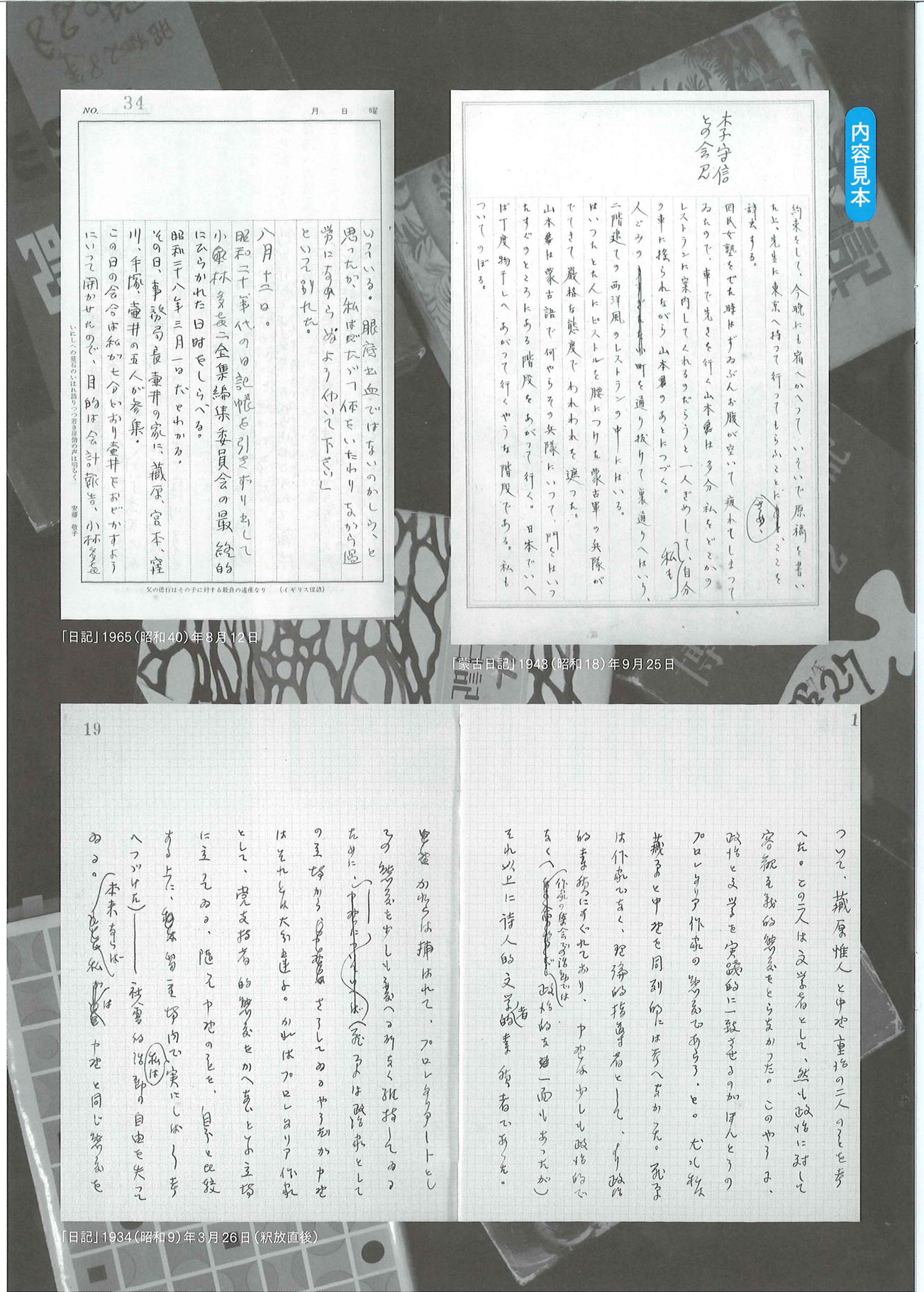
大阪・新聞記者時代　白井かおり
作家生活の始まりと同伴者時代　和田　崇
弾圧の中で・日記の空白とプロレタリア文化運動の時代　池田啓悟
転向の時代　鳥木圭太
「戦時下」の生活と通俗歴史小説の大成　内藤由直
占領期・開拓農民時代　友田義行
戦後、「暗い谷間」の時代　村田裕和
戦後日本共産党との関わりから晩年の創作まで　和田崇／雨宮幸明

【作品紹介】

『新恋愛行』『霊の審判』『舞踏会事件』『ゴー・ストップ』『忍術武勇伝』『子』『治維法の発展と作家の立場』『実録文学の提唱』『洋学年代記』『砦なし』『維新前夜』『愛染』『丹波アリラン』『東京零時』『美女千人城』

II　資料篇

「日記」翻刻（昭和九年～昭和一三年）　浦西和彦
小説「地下鉄」（再録・伏字起し版）　伊藤　純・編
貴司山治略年譜　伊藤　純
著作目録　秦功一、貴司山治研究会・編
「日記」人名索引　貴司山治研究会・編



貴司山治について

鶴見俊輔（つるみ しゅんすけ・哲学者）

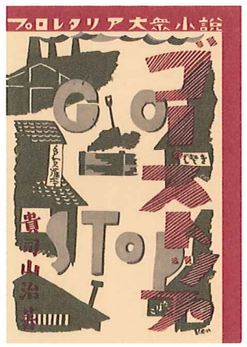
一九五〇年から一九六〇年にかけて、思想の科学研究会が、戦時下の転向について研究しました。その途上、貴司山治氏の活動に出会いました。

貴司さんは、プロレタリア文学のせまさを批判して大衆文学への試みをされ、同時に戦時下の国策に同調されず、中国の魯迅への敬意を保たれました。逃走中の同志をかくまったこともありました。

彼の当時の迷走は、マルクス主義を堅持する側からはわるく思われ、批判を浴びることもありました。私は、貴司さんに共感をもちます。

彼の足跡があきらかになることを望みます。

内蒙古での貴司・老僧と小坊主（1943年）



『ゴーストップ』表紙（1928年）

魅力的な同伴者・貴司山治

ノーマ・フィールド（シカゴ大学東アジア学科教授）

小林多喜二に寄り添って日本のプロレタリア文学を追ってきた者にとって、貴司山治とはなんとも気になる存在だ。ふかい共感を示したにも関わらず、彼が運動やその指導者たちに投げかけた批判には、「政治主義的偏向」のように、今日でも聴かれる、抽象的な非難の言葉も見える。彼の場合、その背後には、運動に不可欠として粘り強く提唱したにも関わらず理解が得られなかった、新しい大衆小説、という課題があった。この信念は創作で実践した。日本共産党ではなくして、作家同盟の活発な参加者であり続け、治安維持法違反で勾留を数回体験した。多喜二拷問死の前後をその年のうちに小説として『改造』で発表し、また戦前、戦後の多喜二全集の編集にも関わった。「重苦しい社会情勢に対応して、とにかく何程かの作家として自分を生かして行くために、合法的な範囲にまではっきりと自分の文学上の仕事を退却させる」（「日記」）ことを決断して転向したのちも、『文学案内』という雑誌を立ち上げ、可能なかぎり、運動の課題を追究し続けた。

しかし、貴司という人物に惹かれるのは、実践の内容と実行力それ自体の魅力とともに、彼の人間味のためだろう。それはこのたびDVDとして世に出される「日記」が活き活きと伝えている。転向後出獄した当日の日記は上記のような理路整然とした発言に交えて、仲間の悪口が目立つ。しかし、毒は感じない。戦時中は生活と作家的名誉に関して焦燥がうかがわれる。報道班へのお呼びが欲しいが、「こちらから志願しては、己れの作家的才能を売り込むやうなわけ」だとして、じっと待つ。

こういうことを記す人間は妙に信用できそうに思える。「日記」を作品や「私の文学史」（遺稿）などと合わせて読み、彼の文学観、社会観を吟味したい。

作家同盟創立総会・貴司写（1929年）

言論史に再検討を迫る第一級史料

佐藤卓己（さとう たくみ・京都大学大学院教育学研究科准教授）

「貴司山治日記」刊行を私はメディア史研究者として長らく待ち望んでいた。拙著『「キング」の時代』の執筆過程で、貴司が『綜合ジャーナリズム講座』第三巻（一九三〇年）に執筆した見事な「『キング』論」に出会った。戦前プロレタリア文化運動における「芸術大衆化論争」で主流派と対峙した貴司の立論は傑出していた。「講談社文化」の魅力、あるいは魔力を最も正確に理解していた文化批評家だったと言えるだろう。この文化批評家は日々体験した出来事を詳細に綴っている。それが戦前＝戦後のメディア史研究に寄与するところは絶大である。例えば、戦時言論統制の領域でも意外な発見が少なくない。拙著『言論統制』で取り上げた「鈴木少佐」に関する記述もその一つだ。一九四〇年一月三〇日、鈴木の講演を聞いているが、戦後の「悪名」に基づく回想ではなく、同時代の実感として貴重である。見え消し部分にカッコ内の修正が加えられている。「その思想は革新、二・二六事件将校達に同じ革新主義（軍人はみなこうなのか知らないが、恐ろしく威張つた男）である。午後三時半頃から六時すぎる迄休みなくしやべつてゐる。その話にはかなり啓発されるたので（こちらの知らないことがかなり）あつた。」評価の軌道修正が明らかだが、その加筆時期を含め今後の研究課題の一つだろう。こうしたプロセスまで明らかにするDVD版は理想的な史料刊行の姿である。

『東西』創刊号表紙（1946年）

『暖流』追悼号（1974年）

貴司山治略歴

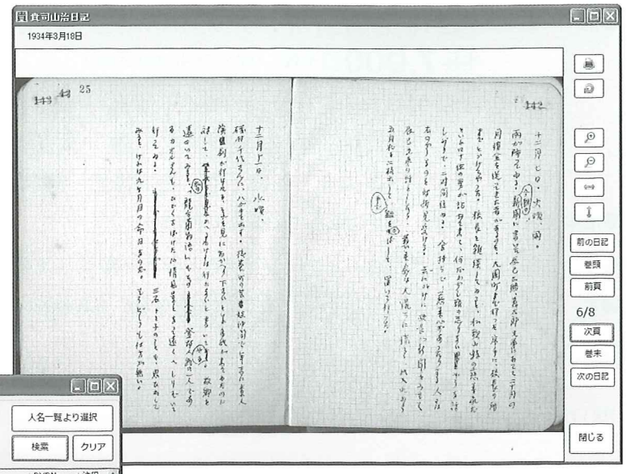
年	月	
1899（明治32）		12・22 徳島県板野郡鳴門村大字高島村で出生。本名・伊藤好市
1914（大正3）		3 板野郡鳴門尋常小学校高等科卒業
		この頃から大正末年にかけて、鳴門塩田労働者の争議が毎年頻発。労働組合評議会のオルグなども来村し、貴司は彼らと交遊をもつようになる
1920		大阪時事新報懸賞小説に「紫の袍」選外佳作（三等）
		大阪に出て大阪時事新報記者となる
1925		9 東京時事新報懸賞小説に「兄妹」（のち「新恋愛行」）入選
1926		5 東京に転居。作家生活に入る
1927（昭和2）		11 朝日新聞懸賞映画小説「霊の審判」入選
1928		東京毎夕新聞に「止まれ・進め」（『ゴー・ストップ』）連載。この頃から「舞踏会事件」「同志愛」などプロレタリア大衆小説を多数執筆公刊
1929		2 日本プロレタリア作家同盟（ナルプ）結成され参加
1930		5 戦旗防衛講演会のため、中野重治、片岡鉄兵、小林多喜二らと京都、大阪、松阪などを巡回
1932		4 治安維持法違反で検挙、渋谷署と豊玉刑務所未決監に年末まで勾留
1933		多喜二虐殺直後の多喜二遺作「党生活者」の発表、『小林多喜二全集』（プロレタリア作家同盟編）編集に関与
1934		1 杉並署に再検挙勾留される。3月釈放 2 貴司の留守宅でナルプ解散決議 6 転向声明を朝日新聞紙上に発表
1935		5 「文学案内社」を創設。雑誌『文学案内』創刊。『実録文学』『詩人』なども発刊
1937		1 治安維持法違反で3度目の検挙勾留。年末まで淀橋署に1年勾留 4・1 『文学案内』終刊。名実ともに貴司の「プロ文学時代」終る
1938～1940		思想的煩悶。「東亜共同体論」に傾く
1941		11 「維新前夜」を読売新聞に連載 この頃から昭和19年にかけて多数の歴史大衆小説を発表公刊した
1942		9頃 「日本敗北必至」を知り、「東亜共同体論」の虚妄を知る
1943		9 内蒙古などを3カ月放浪 ※「蒙古日記」記す
1945		4 京都府船井郡胡麻郷村（現・南丹市日吉町）に疎開。開墾に従事
1946		3 京都府農地委員となり未墾地解放を担当 4 文学雑誌『東西』を京都で創刊（1年継続） 10 全日本開拓者連盟創立、中央常任委員となる
1953		新聞小説通信社「作家クラブ」設立。後に「文芸社」と改名、1963年まで存続 この間東京タイムズ、徳島新聞などに多くの連載小説を執筆
1961		徳島の作家のための雑誌『暖流』を創刊（没年まで続く）
1973		11・20 脳梗塞で死去（73歳）

＊本年表は伊藤純氏（貴司山治ご長男）が作成した略年譜をもとに、編集部が一部変更を加えたものです

本DVD版の主な機能

閲覧画面について

●画像は、拡大／縮小、回転、印刷が可能
表示画面から１クリックで、［前頁］［次頁］［次の日記］［前の日記］への移動が可能

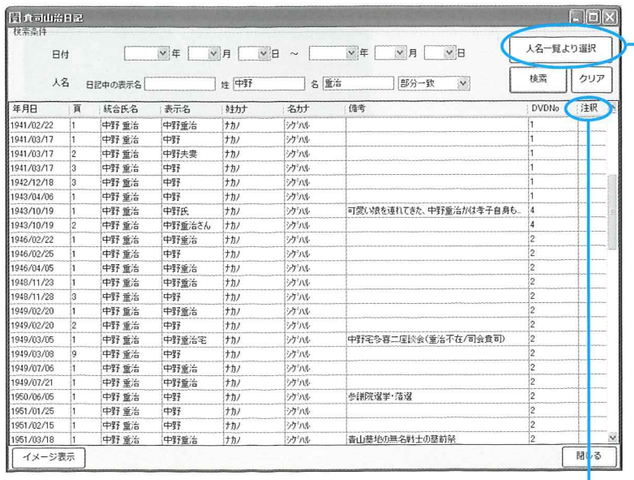


検索機能について

●「日付」と「人名」から検索が可能です。

【日付から検索】

閲覧したい特定年月日または期間を指定
＊特定の年月日指定の場合、日付を左の欄にだけ入力
⇨［検索］ボタンで一覧を表示させ、閲覧したい日付を選択し、［イメージ表示］ボタンをクリック
※「人名検索」の絞り込みにも使用できます。



《注釈》の「あり」をクリックすると、対象人物の紹介文を表示した小画面が出てきます。

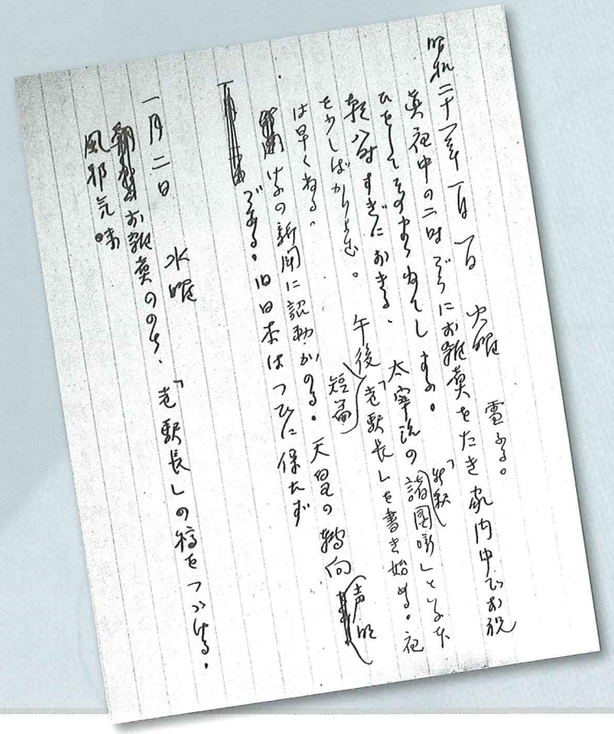
【人名から検索】

※「部分一致／完全一致」の選択可能

◆「日記中の表示名」
日記に出てくる名称（役職名、愛称なども含む）からも検索でき、文面だけでは名前が不詳の人物も特定することができます。
＊一部、人物名を特定できなかったものがあります。

◆「姓」「名」
「姓」のみ、「名」のみでも検索可能です。
＊姓と名を分けられない人物の場合、「姓」に入力

◆「人名一覧より選択」
日記に出てくる人物名の一覧から、対象の人物を選択することができます。
＊複数の名前を持つ人物については、最も認知されている名前に統合してあります。



本書の特色

◆阪神間モダニズムの貴重な同時代資料
——大正末期『婦人之世紀』編集
◆プロレタリア文学崩壊期の赤裸々な日録
◆戦前戦後の小林多喜二全集の編纂過程を具体的に記録
◆〝大東亜共栄圏〟希有の実態記録
——八十万字に及ぶ「蒙古日記」
◆開拓・農民運動現場のドキュメント
——戦後三年間の京都胡麻郷での開拓時代の日記
◆二万五千件に及ぶ広汎な人名検索

日記に登場する主な著名人

青野　季吉　赤木　桁平
秋田　雨雀　芥川龍之介
浅原　六朗　内野　健児
海野　十三　江口　渙
江戸川乱歩　大宅　壮一
小熊　秀雄　遠地　輝武
鹿地　亘　勝本清一郎
菊池　寛　木村　毅
窪川鶴次郎　蔵原　惟人
小林多喜二　笹目　恒雄
佐多　稲子　佐々木孝丸
正力松太郎　鈴木　庫三
曾我廼家五郎　太宰　治
谷口善太郎　壺井　繁治
徳永　直　徳田　秋声
中野　重治　難波　英夫
蜂須賀年子　林　房雄
藤沢　桓夫　藤森　成吉
松岡　譲　丸木　俊
宮本　顕治　宮本百合子
村山　知義　柳瀬　正夢
山田清三郎　李　守信

●関連図書〈復刻版〉のご案内

貴司山治＝主宰［１９３５年～１９３７年］
文学案内
全10巻・別冊１・附録１

●別冊＝解題（浦西和彦）・総目次・索引
（別冊のみ分売可＝本体１、０００円＋税）
●菊判・上製・総３、４５２頁
●本体揃価格＝**１４０、０００**円＋税

一九三五年に創刊された本誌は、文学好きの勤労大衆に創作の見本を示し、「生産・勤労の場面を描いた小説」を募集・掲載するなど、労働者の中から作家を養成することを目的とした。アジアの文学作品の紹介や、全世界の労働者文学の現状報告は、労働運動史・プロレタリア文学史・旧植民地文学史の研究者にとって貴重な資料である。

推薦＝伊藤共治・浦田義和・黒古一夫・紅野敏郎

人民文学
全15巻・別冊１・附録１

●別冊＝解説（鳥羽耕史・道場親信）・回想（柴崎公三郎）・総目次・索引＋ＤＶＤ（表紙画像データ収録）
（別冊のみ分売可＝本体２、０００円＋税）
●Ａ５判・上製・総６、７５０頁
●本体揃価格＝**２５６、０００**円＋税

一九五〇年代、「新日本文学会」から離れた江馬修や藤森成吉らによって創刊された本誌は、各地で発行されたサークル誌の中心的存在として、安部公房・野間宏らの文壇作家や、小林勝・岩上順一・春川鉄男ほかの労働者作家、許南麒ら在日朝鮮人作家等が参画した戦後民主主義文学運動の拠点であった。

推薦＝加納実紀代・島村　輝・坪井秀人・成田龍一

貴司山治 全日記 DVD版

●体　　裁　DVD 全４枚　全6,308画像（12,477頁分）
＋検索システムインストールディスクCD１枚・別冊１

●別　　冊　『貴司山治研究』（貴司山治研究会編・Ａ５判・上製・約480頁）
本体7,000円＋税　ISBN978-4-8350-5989-1

解説＝中川成美（立命館大学教授）　伊藤　純（貴司山治長男）　浦西和彦（関西大学教授）
鳥羽耕史（徳島大学准教授）　森　久男（愛知大学教授）　安岡健一（日本学術振興会特別研究員）

解題＝白井かおり　和田　崇　池田啓悟　鳥木圭太　友田義行　内藤由直　村田裕和　雨宮幸明

●原本提供　伊藤　純（寄託先：徳島県立文学書道館）

●推　　薦　鶴見俊輔（哲学者）　ノーマ・フィールド（シカゴ大学）　佐藤卓己（京都大学）

●定　　価　本体揃価格287,000円＋税　ISBN978-4-8350-5984-6

●刊　　行　2011年1月

貴司山治 全日記● DVD 版概要

DVD No.		価格一覧
Disc 1	日記　1919(大正8)年～1928(昭和3)年、1934(昭和9)年～1936(昭和11)年、1938(昭和13)年～1944(昭和19)年	本体100,000円＋税 ISBN978-4-8350-5985-3
Disc 2	日記　1944(昭和19)年〔京都胡麻郷入植後〕～1971(昭和46)年	本体100,000円＋税 ISBN978-4-8350-5986-0
Disc 3	「地下鉄争議ノート」(1933年)	本体40,000円＋税 ISBN978-4-8350-5987-7
Disc 4	「蒙古日記」(1943年)	本体40,000円＋税 ISBN978-4-8350-5988-4
別　冊	『貴司山治研究』(貴司山治研究会・編)	本体7,000円＋税 ISBN978-4-8350-5989-1

〈動作環境〉
・コンピュータ本体：Pentium4以上を搭載したパーソナルコンピュータ
・対応OS：日本語版Microsoft WindowsXP以上
・メモリ：512MB以上（1GB以上推奨）
・ハードディスク：100MB以上の空き容量
・モニタ：1024×768ドット以上
・ドライブ：DVD-ROMドライブ必要

社会タイムス「東京租界」ポスター（1953年）

不二出版
〒113・0023
東京都文京区向丘1・2・12
電話03・3812・4433
ファクシミリ03・3812・4464
振替00160・2・94084

●表示はすべて税別